

平成30年度第2回大学リーグやまぐち代表者会議 議事録

1 日時等

日 時：平成31年3月29日（金）15時～16時

場 所：県庁4階 共用第1会議室

2 議 事

平成31年度事業計画（案）及び予算（案）について

→ 全会一致で承認された。

岡会長から、インフォメーションスタンドの設置・活用について、岩国駅など岩国エリアの設置について提案があった。

3 意見交換

(1) テーマ

地域や企業との連携促進（村岡特別顧問より）

(2) 概要

◇ 村岡特別顧問

私ごとであるが、このたび第10期の中央教育審議会の委員に就任した。

審議会では、高等教育も含め、就学前から生涯学習まで多岐にわたるテーマについて関わらせていただくこととなる。

中央教育審議会では、昨年11月に、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が示され、複数の高等教育機関や産業界、地方公共団体の恒常的な連携体制として、地域連携プラットフォームの構築を進めることや、大学が強みを活かして連携する仕組みとして、大学等連携推進法人の導入が示されている。

「大学リーグやまぐち」としても、今後、こうした動きにどう対応していくべきかということを議論していただきたいと考えている。

先程の「グランドデザイン」では、大学が教育研究成果を活用した産学連携等に積極的な役割を果たしていくことも求められている。

この点、「大学リーグやまぐち」が今年度から進めている「地域や企業等との連携促進」は、今後さらに、各大学において積極的に取組を進めていただくことが重要と考え、冒頭申し上げたように、来年度当初予算に、この取組を支援する予算を新たに計上したところである。

若者の県内定着に向けては、県内企業と学生が、早い段階で接触し、学生が企業を知り、様々な課題解決の過程を実体験することで、自らが山口で活躍する姿を明確にイメージしてもらうことが重要であると考えており、この取組はそうしたことにも資するものと考えている。

本日は、只今申し上げたことも踏まえ、「地域や企業との連携促進」に係る各大学での具体的な取組状況や考え、今後の見通し等について、御意見をいただければ

と思っている。

◇ 岡会長

村岡特別顧問が中教審の委員になられたので、今後、情報を我々に提供していただけたらと思う。また、特別顧問にも、様々な情報が入ると思う。

地域連携プラットフォームに関しては、近々、文部科学省においてガイドラインが策定されると聞いており、どの点を議論してほしいかということも記載されること。また議論をしていきたい。

それでは、「地域や企業との連携促進」に係る各大学での具体的な取組状況や考え、今後の見通し等について御意見を伺いたい。

◇ 徳山大学（岡野学長）

地域や企業との連携は大変重要と考え、積極的に促進するようにしている。

徳山大学では、山口大学、山口県立大学をはじめ、県内9大学3高専と協働して実施してきたCOCプラス事業や文科省の大学教育再生加速プログラム（AP事業）の補助金を活用して、地域課題解決とアクティブラーニングをテーマとする教育改革を進めてきた。

その一環として、実施している「地域ゼミ」について紹介したい。

これは、学生が身近な地域課題を探しだし、その解決に向け、協働して調査分析を行い提言を発表するPBL型の授業で、平成28年度から全学必修化し、300人余りの学生全員が受講することとなっている。

指導教員や学生が自ら見つけ出したテーマに加え、自治体や企業、商工会議所、JC（青年会議所）などからも、多くの地域課題の提案をいただいている。

この授業は、2年次配当科目であるが、一過性のものにしないため、1年次必修の「教養ゼミ」では、PBLリテラシーとして、情報や文献の収集法、ディベート・スピーチ・プレゼン力を涵養する学習を行い、2年次に「地域ゼミ」を体験し、そして、3・4年次の専門知識を活用したPBL「専門ゼミ」につなげていくカリキュラム体系を組み、地域課題解決型アクティブラーニング（AL）を4年間の継続的な学びとすることをめざしている。しかし、ここで一番重要となるのは、やはり「専門ゼミ」における「地域や企業と連携した本格的なPBL」の活性化にある。一人でも多くの学生達がそのような体験をし、それを地域でのキャリア形成に繋げていけるような体制づくりが重要になる、と考えている。しかし現状は、まだまだと言わざるを得ない。

そのような体制づくりにおいて、この「大学リーグやまぐち」の事業が大きな役割を果たしていただけたらと期待している。また、他大学や他地域の企業との連携促進にも一役かってほしいと期待している。

補足として、教職課程の学生が受ける「地域ゼミ」では、近隣の小・中学校と連携し、例えば、遠足や運動会の運営補助をテーマとする、といったものがある。大変興味深い取組ではあるが、単発的なボランティア活動の集積となっているきらいもあり、「もっとPBLらしい構造にできないか」と注文をつけている。それに対

し、最近担当教員が出してきた答えが「コミュニティ・スクールへの参画をとおして、より包括的に扱えるような形にすることを検討する」というものであった。

そのことが頭にあって、本日、事務局のご報告にあった「コミュニティ・スクールとの連携」については、大変興味を持って聞かせていただいた。しかし、具体的な内容については、まだあまりはっきりしていないように感じる。今後、是非、中身を詰めていっていただきたい。

◇ 山陽小野田市立山口東京理科大学（金田理事）

本大学では、3年次に地域技術学を開講している。

今年で2年目であり、長州産業等から技術的な課題をいただき、学生6～7人で1グループを構成し、10グループ程度でのグループワークで課題解決を図るといったものを行っている。企業の課題を受ける学生の能力の問題があり、マッチングはうまくいっていないところもあるが、今年は、昨年よりは改善されたと感じている。

現在は、山陽小野田市の企業に限っているが、広げていきたいと考えている。

例えば、山陽小野田市内には、情報系の会社がなく、企業探しが大変といった問題があるため、この事業で協力いただければと考えている。

本学は薬学部を設置したところである。山口県内には、製薬会社は多々あるが、大企業が多く、山口県に残れるのは、山口テルモだけといった話がある。地方採用枠みたいなものができればと思っている。

◇ 山口学芸大学・山口芸術短期大学（三池学長）

本学はデザイン関係で活動している。地域の企業においては、パッケージデザインやホームページ、UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）の作成などの際、デザイン会社に依頼することとなるが、どんなレベルのデザイン会社を相手にするのかということが難しいため、大学においてその点をつなぐことができないかと考えている。

昨年4月に、「デザインスタジオみらい」を立ち上げ、デザイン関係において、大学と企業が連携し、小学生等に対する英語&デザインなどの教室を開催するなどのプロジェクトを走らせており、これが本学の一つの特徴と思う。

先ほど、PBLの話があったが、来年度から、県内のPBLをリードする福屋先生が本学に来られることになっているため、PBLの導入について考えている。

◇ 梅光学院大学（清水副学長）

本学では、26日に、新校舎が竣工した。今後、学生と教職員と一緒に学ぶというコンセプトと併せ、地域の方に大学に入ってもらいたいと考えている。1階は、教員の研究室はなく、各員がPCを持ち、好きなスペースで研究することとなる。

また、1階には、各教員の研究内容等を展示する書棚がある。その他、今回、初めてカフェを造ったので、地元の方が気軽に来ていただきたいと考えている。

教室は基本的にはガラス張りで、オープンスペースとなっている。

本学でも、PBLを2019年度から18企業と開始し、そのうち2企業は海外企業となっている。

今後は、古い校舎は解体し、隣の下関市の競技場等と併せ、できれば街のたまり場のようなことができると考えている。日曜日には、全国から約400社の企業が来られ、新校舎を視察するイベントもあるが、是非、機会があれば、本学にお越しいただきたい。

◇ 山口県立大学（加登田学長）

COCプラスが来年度終了するが、事業の成果が着実にできていると感じている。

インターンシップでは、他県から来ている学生が参加してくれたとの企業からの声があった。また、Jobフェアでは、単に学生が企業を知ることだけではなく、企業の若い職員が自身の仕事の内容をプレゼンするという一方で、職員教育として非常に効果があり、一体感もある。大学と企業とが関わることで、新しいワクワク感が生まれ、それを積み重ねていくことが大事だと思う。

私も、中教審の臨時委員として、大学分科会に参画することとなった。

先日、1回目が開催され、まだ論点整理の段階であるが、地域での連携をすることが、地方とは少しニュアンスが違う。地域というのが、いろいろなところで抽象的にあるのではなく、地域の活性化に大きな課題を持っている地方としての高等教育機関のあり方というのを、もう一歩尖った形で検討していく仕掛けが必要ではないかと申したところ。

地域との連携は、大都市ではできないことであり、一つ一つの要素である大学が連携したかたちで新たな価値が生み出せるかということが大きなポイントであると思っている。

今後、ネットワークや連携というものを強めて、地域の活性化に努めていきたいと思う。

◇ 徳山工業高等専門学校（勇校長）

本校では、徳山市、下松市、光市などを中心に、50社程度の企業とテクノアカデミアを形成している。

取組例として、一つは、技術セミナーとして、専門的な知識を有する教員と企業の技術者双方向の、いわゆる勉強も含めた意見交換等を行っている。

また、特別セミナーとして、外部講師などを招聘し、企業の方に参加していただき、現代の教育の状況或いは、社会の状況などを一緒になって勉強する。

更に、企業研究会として、地域の企業の中身について学生に知っていただくようなブース的なものを設置している。

その他、企業見学会として、主に本校の学生が、テクノアカデミアに参画する企業或いは、それ以外のところも含め見学等を行っている。

テクノアカデミアの活動の中で、技術相談や共同研究などにむすびついているものもある。

学生に、県内の中小企業を中心として、その課題や中身について知っていただく

取組を進めている。

新しい試みとして、最近よく言われる高校等での探究学習や、STEAM教育、いわゆる多方面の知識を統合して地域の課題を解決していくという、そこにはクリティカルシンキングとして、批判的な精神を持ちながら、自身が有する知識を活用するかたちで、これは主に、PBLやグループワークなど、いろいろなかたちで行っていく。そういったものを学科横断・学年横断というかたちで行おうと考えている。

地域の課題をいかに解決していくかで、低学年の学生から高学年の学生で、それぞれ役割分担が変わってくるのが見えてきて、学生教育には非常に良いと思っている。

もう一つ、個別最適化学習というもので、学生個々自身のキャリア実現のため、授業モジュールといい、数コマの先生方や外部講師による講座を学生自身が組み合わせる学習形態を今年から実施している。将来的には、単位化も目指している。学生が自身のキャリアを実現し、どんなものをどういう知識を得て、それを得るために、どういう授業、講座が必要かなど、自身が目指すもののためには、何が必要かということも学んでいくかたちになっていくかと思っている。

◇ 山口大学（岡学長）

COCプラスについては、来年度、文部科学省の支援は終了することとなっている。事業協働機関である企業127社のうち、67社は私が直接訪問した。企業からは、是非とも、このCOCプラスのような組織、試みを残してほしいという意見をいただいた。少しずつ、地元企業も大学を知ることができるようになったことはとても良いことだったようで、産学連携も含め、研究もあるし、地元で優秀な人材を輩出する、提供するということが、元々の目的であることから、産学連携、それを正に進めてきている。これについても、来年度終了した後も、いろいろな試みをする必要があると考えており、いろいろな意見もいただいている。

現在、参加されていない大学も、来年度終了することから、県全体で改めて、仕切り直しで考えていきたいというような状況である。

◇ 岩国短期大学（寺嶋学長）

県境の岩国市であるが、広島市において、200万人広島都市圏構想というものがあり、広島市を中心に、広島県内から山口県の柳井市・周防大島町・平生町までを含んだ広島広域都市圏を造っていかうということで、平成28年に制定され、岩国市の中でも少し、広島への進学、就職という動きが出ており、我々も危機感を持っている。

コミュニティ・スクールとの連携について、本学は幼児教育の単科であるが、聞き取り調査をすると、中学2～3年生で将来なりたい職業が決定し、それから高校選びになっていくというアンケート結果を得ている。

このため、来年度は、中学生のみを対象としたオープンキャンパスを企画し、岩国市教育委員会とも連携して、岩国への定着ということを図っていきたいと考えて

おり、ひいては、高校進学時に、この大学・短大を進学したいという意識を植え付けたいと考えている。

高校生の定着ということもあるが、中学生への働きかけということも、今後、力を入れて行わなければならないと考えており、中学生向けのオープンキャンパスの状況については、また報告したい。

◇ 山口大学（岡学長）

小中高に、山口県や企業の良さを知ってもらうとよいと思う。特に、県は既に、そのような冊子を作っているのので、充実も含め、今後、進めていければよいと思う。

4 その他

山口大学から「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」への参画の案内があり、山口芸術短期大学からは「2019年度山口県保育魅力発見セミナー」の開催に係る案内があった。

◇ 山口大学（岡田さん）

本事業は、準備委員会を経て、3月6日に、県内の国公立大学をメンバーとして設立した。今後、会員を徐々に拡大できればと考えているので、この場で御案内させていただいている。

平成28年度に障害者差別解消法の施行に伴い、大学における障害者のある学生の方々への対応が求められてきているところ。また、障害のある学生の方々の在籍率が増えてきているとの統計もありますし、障害の種類も増えてきている。

そこで、県内の大学の障害学生の担当者同士でつながり、情報交換やノウハウを共有できる場があればということで立ち上げた次第である。

今後、会員を拡大するに当たり、大学リーグやまぐちの会員の皆様にも御協力いただければと考えているので、御検討をお願いしたい。

◇ 山口学芸大学・山口芸術短期大学（三池学長）

7月28日（日）に、保育魅力発見セミナーを開催する。地域の高校生や学生、教職員など、500名程度でできればと考えている。

保育士を目指す高校生が減少している中で、九州・四国では、保育士養成に奨学金を出すなどしており、山口県から周辺の県等に出ていくことも多い。

山口県も、是非、保育士の県内定着に向けた奨学金制度をつくってもらいたいと考えている。